

# 世界に向けた もう一つの提言

縄文から未来を考える

国際シンポジウム

5月14-20日



提言



この20～30年の間に、世界は様々な危機に直面する事になった。それは広範囲にわたる自然災害（地球温暖化、繰り返される津波や地震）であり、政情不安（ウクライナとロシアの戦い、存在感を増す中国、ポピュリズムの横行、増々広がる貧富の差）、それに加え、最近では新型コロナウイルス感染症の大流行が、世界中の社会や経済、政治のありさまを変える脅威となっている。我々はこれらの問題に対処するため、従来通りの解決策を用いようとしているが、これは現在のところ、上手く行っていないようだ。そこで、これまでに無い新たな解決策を考え、世界的な問題に取り組むための新たな手段を政治家たちに提案する事が急務となる。

このような状況の中で行われる今回のプロジェクトは、我々の暮らしや社会を立て直すための新たな手段を探るべく、縄文をはじめとする古代の叡智に学ぼうとするものだ。あるいは、神（々）を理解するための試みとも言えるだろう。古代ユダヤ教やヒマラヤの神々、仏教、メソアメリカ、縄文、シュメールなどの神学や儀礼の伝統について学び、あるいは、これらの宗教進歩。哲学の伝統を専門とする思想家や学者たちの対話によって、このプロジェクトは現在、危機のまっただ中にある世界にふさわしい、新たなアイデアを生み出そうとするものだ。古代の叡智は、我々が新型コロナの流行拡大に対処し、豊かな人間性を育くむ上で、一体どのような倫理的、靈的そして精神的手段を与えてくれるのだろうか？

ここに提案しようとするのは、それぞれが一週間ほどの連続性を持った議論で、縄文、古代中近東やヒマラヤ、仏教、メソアメリカ文明、ユダヤ教を専門とする数人の学者と宗教思想家から成る小規模なグループによるものだ。参加者たちは、日本で徹底的な議論を行い、縄文の遺跡、宗教遺跡等を訪問し、儀礼に参加し、聖職者と会合する予定だ。このプロジェクトは、縄文に代表される“持続可能な共生社会”を誇った古代の叡智の理解を以て人類が直面する課題に取り組み、新たな「既成概念にとらわれない」方法を探る事を目的としている。議論自体は、以下の一連のテーマを中心に行われる予定だ。例えば、宇宙観、社会と生活、食と農業、健康と生活、人間同士のコミュニケーションなどのテーマがある。

今回のプロジェクトも私達イスラエル日本学会の友人であるコロナ財団内田力氏のご支援により実現しました。

**ニシム・オトマズキン**

エルサレム・ヘブライ人文学部学部長

# 会議参加者リスト

上のように今回の参加者は世界各地の古代文明であるユダヤ、シュメール、ヒマラヤ、マヤ、テオティワカン、アステカなどで知られるメソアメリカの宗教学者、宗教リーダーが各々の古代の知恵を持って集合し共に縄文遺跡をはじめとする日本の古代文明サイトを訪問研究することにより、古代より本来は共通である人類の生き方“持続可能な共生社会の知恵”を改めて今後の人類社会へ羅針盤として提案することにある。



**Amir Fink**  
アミール・フィンク

テルアビブ大学の考古学の博士号を取得。2006年から2012年までシカゴ大学のジンシルリ（サムアル）探検隊のアソシエイト・ディレクターを務めた。他は、テル・アチャナ（Tel Atchana）、テル・ベットシェアン（Beit Shean）、アインゲディ（Ein Gedi）とテル・レホフ（Tel Rehov）などの発掘調査でシニアスタッフを務めた。2010年には、青銅器時代後期のテル・アチャナに関する本が出版された。聖書、ヒッタイト、フリヤ、アッシリア考古学、ウガリト語の歴史、言語、文学の分野の主要雑誌に多くの論文を発表している。



**Ken Kitatani**  
キタタニ・ケン

現在、国連自然との調和計画の専門家を務めている。また、Center for Earth Ethicsの前共同議長および現諮問委員、国連NGO委員会、Society for Conservation Biologyの理事を務め、UNFCCC財務常任委員会およびUNFCCCの常設オブザーバーとして務めています。ケンには、イェール大学の宗教とエコロジーフォーラム、ウィスコンシン大学マディソン校のLoka Initiative、ICVグループのUnification Fundのアドバイザーとして務める。



## 丸山敏秋 Maruyama Toshiaki

かつては中国や日本の伝統医学思想を研究し、筑波大学哲学・思想研究科で博士の学位を取得。1987年から、祖父の設立した倫理研究所 (Institute of RINRI Ethics) に入り、1996年に同研究所の理事長に就任。会員組織を統括して社会教育活動に従事する傍ら、日本の倫理・宗教思想や霊性文化を研究, 関連著書多数あり。



## パステイ・ミンダヒ Mindahi Crescencio Bastida Muñoz

The Fountain 財団 プログラム・ディレクター、Mother Earth Delegation メキシコの高レルマ川流域のオトミ地域評議会のゼネラルコーディネーターを務める。ミンダヒは、1992年の地球サミットや持続可能な開発に関する世界サミット (WSSD、2002年) などで先住民の権利と持続可能性に関するさまざまな委員会やサミットの代表を務めた。メキシコ、トゥルテペックで出身、メトロポリターナ大学で農村開発の博士号を取得し、州と先住民の関係、異文化間教育、集団的知的財産権、関連する伝統的知識などについて幅広く執筆、講演活動を務めている。



## ニシム・オトマズキン Nissim Otmazgin

ニシム・オトマズキン / 国立エルサレム・ヘブライ大学教授、人文学部学部長。トルーマン研究所所長。1996年、東洋言語学院 (東京都) にて言語文化学を学ぶ。2000年エルサレム・ヘブライ大にて政治学および東アジア地域学を修了。2007年京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科修了、博士号を取得。同年10月、アジア地域の社会文化に関する優秀な論文に送られる第6回井植記念「アジア太平洋研究賞」を受賞。12年エルサレム・ヘブライ大学学長賞を受賞。研究分野は「日本政治と外交関係」「アジアにおける日本の文化外交」など。京都をこよなく愛している。アエラなど多くの日本の出版物に執筆中。

[en.asia.huji.ac.il/people/nissim-otmazgin](http://en.asia.huji.ac.il/people/nissim-otmazgin)



ラジマニ・テイグナイト

**Pandit Rajmani Tigunait**

ヒマラヤ最後の聖者ヨギマスターとして知られる故スワミ・ラーマの後継者、アメリカ合衆国ペンシルバニアにてラーマの創立したHimalayan Institute of Yoga Science and Philosophy (ヒマラヤン・インスティテュート・オブ・サイエンス・アンド・フィロソフィー)の代表。ヒマラヤに伝わる霊性なる古代からの知恵を全世界に伝道するとともにカメルーン、インド、メキシコ等で多様な人道支援プロジェクトを推進している。持続可能な農業プロジェクト、バイオ燃料作物の栽培を含む、sustainable社会の実現へのイニシアチブをとる。ヨガの経典などに関する多数の著書(和訳書を含む)あり。

[himalayaninstitute.org](http://himalayaninstitute.org)



アブラハム・マーマン

**Rabbi Avraham Maman**

モロッコに永く在住したスファラデイ系の家庭に育ったユダヤ・カバラのラビ。現在、イスラエル・ヤフネに在住してユダヤの古神道もしくは密教と言われるユダヤ・カバラの研究家。ユダヤ教では教えない死後の世界、神は全ての生命体内に内在すること、数秘学、占星術などに精通。



瓜田理子

**Urita Michiko**

皇學館大学現代日本社会学部准教授。宗教儀式、特に神楽の専門家。米国ワシントン大学の留学を経て海外に日本の皇室関連の宗教儀式について広く発信。イスラエルのヘブライ大学と共同研究を行なっている。



ベルギーの王女・マリー エスメラルダ

**Princesse Marie-Esméralda de Belgique**

ベルギー王室の一員の王女。マリー・エスメラルダは、歴史的環境的テーマに関連するドキュメンタリーのジャーナリスト・作家・共同監督。また、環境活動家であり、女性と先住民の権利のための活動家。

# 会議及びツアー日程（仮案）

## 1日目 5月14日（日曜日）

### 新潟県立歴史博物館

15,000～5,000年前までの日本各地の縄文文化を簡潔に展示：日常の暮らし、竪穴式の様子、狩、魚、植物採集をビジュアルに展示する日本屈指の博物館。ハイライトは信濃川流域で営まれた縄文文化と国宝に指定されている火焰土器の展示。

## 2日目 5月15日（月曜日）

### 大湯ストーンサークル&黒又山

日本で最も多くストーンサークルが見つかった秋田県。代表的なのが、世界遺産に指定された「大湯環状列石」。2つの環状列石を主体に述べ250、000sqmには8500以上もの川石よりなる環状列石が現存。併設の展示館では数多くの出土品を展示。

大湯ストーンサークルより車で10数分の距離にある黒又山、1992年～1994年にかけて同志社大学博物館研究室メンバーによる環太平洋学会「黒又山総合調査団」が地中レーダー・赤外線写真・航空写真などを用いて黒又山の学術調査を敢行。山全体が7～10段の階段上に加工され、山頂部分の地下10mの所に空洞があり何者かが石棺に埋葬されていること、石器、土器、鉄釘、古銭、石英安山岩から作られた石製品などが遺物として納められていたことが判明。1,000年前に噴火した十和田山の火山灰が黒又山に積もり、その上を杉林が覆ったため現在はピラミッドであったことは外からはわからない。

## 3日目 5月16日（火曜日）

### 十和田と大石神ピラミッド

日本の古代文明の地と言われる十和田湖を中心とする高原地帯、イエスキリストの墓などユニークな伝説の中で、戸来村にある大石ピラミッドと上大石ピラミッドは5万年前のピラミッドと呼ばれている。鏡石、方位石、太陽石などが確認できる。

これらの周辺では巨大な石が散乱していて、かつてこれらの石をもとに巨大な建築物が存在していたのではないかと考えられる。また、周辺の（どこの森）からは文字石と呼称される文字状の刻線が刻まれた多くの石が発見されている。一部ではシュメール文明とのつながりが指摘されている。

### ロジカウベル

上記のどこの森で採取された刻み石の展示あり。

### 十和田奥入瀬溪谷から八甲田、そして青森へ

日本で最も美しいといわれ14kmの溪流美を誇る奥入瀬、その途中に、巨石文明の名残巨石「石ヶ戸」がある。

## 4日目 5月17日 (水曜日)

### 青森県青森市大字三内字丸山

約5900年前～4200年前(3,900BCE～2,200BCE)の縄文時代屈指の遺跡、世界遺産。  
竪穴建物跡、大型竪穴建物跡、大人の墓、子どもの墓、盛土、掘立柱建物跡、  
大型掘立柱建物跡、貯蔵穴、粘土採掘坑、捨て場、道路跡などが見つかри、膨  
大な量の縄文土器、石器、土偶、土・石の装身具、木器(掘り棒、袋状編み  
物、編布、漆器など、骨角器、他の地域から運ばれたヒスイや黒曜石なども出  
土展示されている。

### 了美ワイナリーで食事会

宮城県中央に位置するピラミッドを並べたような7つの低山からなる七ツ森。  
笹倉山、松倉山、撫倉山、大倉山、蜂倉山、遂倉山、鎌倉山の七峰をのそれぞ  
れ山頂や山頂付近に薬師如来石仏が安置。古代から最も古い謎の文明、日高見  
国の中心地とも言われている。

## 5日目 5月18日 (木曜日)

### 仙台

東日本大震災のメモリアルホール、震災遺構 仙台市立荒浜小学校。  
現代の生きすぎた文明が招いた究極の自然破壊に学ぶ。

### 倫理研究所丸山敏秋理事長主催のウエルカムパーティ

都市センターホテル

## 6日目 5月19日 (金曜日)

### 国際シンポジウム 1日目 倫理研究所 紀尾井清堂

東京都千代田区紀尾井町3-1

10:00-13:00

13:00-14:00 (昼食)

14:00-17:00

## 7日目 5月20日 (土曜日)

### 国際シンポジウム 2日目 倫理研究所 紀尾井清堂

東京都千代田区紀尾井町3-1

09:30-12:00



国際シンポジウム 1日目 5月19日 (金曜日)

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 10:00-10:10 | 開催挨拶               |
| 10:10-11:15 | 丸山敏秋               |
| 11:15-12:20 | 瓜田理子               |
| 12:20-13:00 | アブラハム・マーマン         |
| 13:00-14:00 | 昼食                 |
| 14:00-15:00 | パステイ・ミンダヒ          |
| 15:00-16:00 | ラジマニ・テイグナイト        |
| 16:00-16:15 | ベルギーの王女・マリー エスメラルダ |
| 16:15-16:50 | アミール・フィンク          |
| 16:50-17:00 | 閉会挨拶               |

国際シンポジウム 2日目 5月20日 (土曜日)

- |             |          |
|-------------|----------|
| 09:30-12:00 | ラウンドテーブル |
|-------------|----------|

